

各國工業生産指數 (1928年100)

	ロシア	英國	米國	佛國	獨逸	世界指數
1931年	177.2	82.2	73.0	97.9	69.1	82.6
1932年						
1月	196.1	89.1	64.9	82.9	55.2	76.2
6月	180.3	89.4	53.2	73.5	54.7	67.3
11月	178.1	76.1	59.0	73.0	51.2	81.0

各國株價指數 (1927年100)

	獨逸	米國	英國	佛國
1932				
5月7日	21.8	34.2	34.0	55.3
9月3日	26.4	50.5	48.5	67.3
11月5日	24.4	37.6	55.2	55.2

以上二三の數字に依つて一九二八年以後の世界經濟の急激な没落をうかがひ知る事が出来る。景氣のバロメーターとさへ言われる株の暴落は、生産指數の年次的低下と共に世界恐慌の深刻の度を示すものであつて前記貿易指數低下

形成のために世界再分割の第二次國際戰爭の危機に當面してゐると斷言し得るであらう。極東の市場を中心として捲き起る世界戰渦の如くにせられる世界プロレタリアートの任務はこの意味に於いて重要である。殊にその戰渦の中心となるべき日本プロレタリアートの負ふべき任務は重大であらう。以下日本資本主義の概要と日ソの對立、日支並びに列國對支對滿の概要に就いて述べる事にする。

日本資本主義の概要

金融

我が國の資本主義は矢張り世界資本主義の一部分として存在である限り世界恐慌と不可分離の立場にある、だからして恐慌日本の金融としてみるべきだが、こゝでは簡単に我が國銀行組織の上に表われた金融の情態を略記するに止める。

銀行の集中と金融資本の擴大

我が國の銀行は一八九三年を契機として非常に増設された。その當時五四五銀行であつたものが一九一〇年には一躍一八六七銀行に増加したのである、即ち日清戰爭の後をうけて我が國産業の勃興時にあつて斯様な銀行の増設をみ

は高度の關稅障壁の結果だと言へる。

要するに現在の恐慌は時間の長さにおいてその深刻性において、殆んど恒常的な資本過剰と構成失業との上に襲來した恐慌である點において、具體的に言つて資本主義第三期の恐慌であるために資本主義そのものの生命を脅かすのである、しかも此恐慌の深刻擴大を通じ關稅は更につりあげられ海外市場の獲得は國難となり、資本主義の國際性を修正して自國資本主義の安定のための努力、即ち自給自足の資本主義へ、自由貿易主義から關稅戰爭へ、隨而プロック、エコノミーの形成のための世界再分割、言ひかへれば平和主義に依る海外市場の獲得から武力に依る市場の奪取植民地の侵略となつて表われて來る。

英國においては、英本國、植民地自治領を繋ぐ帶紐を昨年七月オタワ會議で引き締め大英プロック・エコノミーの形成に努力し、米國は中米、南米を一體とするプロックを、佛國、獨逸は中歐を結んでのプロック、亞細亞においては日滿プロックの形成に熾烈な闘争が行われ、殊に後段に述べるであらう日ソの關係、日英米獨の對立は日滿プロックの形成運動の中心に直接には日支の武力的抗争を發展し更に第二次世界戰爭を誘發する情勢にあるのである。即ち非常な沈滞期にある世界資本主義は經濟プロックの

たのであるが、その後、年を次ぐに隨つて減歩してゐる。勿論世界大戰後一時増加の道を通つてゐた時代もあつたが昭和二年の金融恐慌後急速に激減して昭和五年(一九三〇年)は全國で總數八八銀行になつてゐる。勿論規模においては明治二十七年の一行當り五萬三千圓の拂込に對し、昭和五年末現在にあつて同じく百五十七萬に達し初期の約三十倍に擴大されてゐる。

銀行の規模

	本店數	支店數	及 出張所	資本 總額	平均 當行 一拂	平均 資本 56円
明治26	545	165		30,584		56
27	700	196		37,381		53
34	1,867	1,458		251,700		134
昭和2	1,283	777		1,481,479		1,155
5	881	7,119		1,381,143		1,568

以上の數字は若き資本主義日本の經濟を具體的に表すものであつて今資本の大小別に依る銀行の状態を示すと